将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025（改訂版）」の令和5年度実績評価について

【総合評価】

○自己点検（令和5年度）

令和5年度は、令和2年度に見直しを行った将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025（改訂版）」の3年目となります。また、令和5年5月に理念、基本方針の見直しを行い、「私たちは、市民の健康を守り、地域医療に貢献します。」という新たな理念に基づき、高度急性期病院として、DPCにおける適正な入院期間を意識した在院日数の重要性を再認識した上で、入院が必要な患者の積極的な受入れに重点的に取り組みました。

その結果、「新入院患者数」が前年度と比べ増加し、新型コロナウイルス感染症流行前と同水準となりました。また、「平均在院日数」が短縮し、「入院診療単価」が増加しました。収支では、医業費用の増加や新型コロナウイルス感染症関連の補助金の減少により、「医療収支比率」、「経常収支比率」が悪化しました。

主な取組として、令和5年5月に実施した電子カルテ等のシステム更新に合わせ、患者サービスの向上や業務の効率化を図ったほか、4年ぶりに院内で看護フェスティバルを開催し、市民や地域住民とのコミュニケーションの機会を確保しました。また、11月からはひらしん平塚文化芸術ホールで医師や看護師などが病気について説明する市民健康講座を開催しています。地域医療機関との連携については、「平塚市民病院登録医の会」を4年ぶりに開催したほか、ホットラインの充実を図り、強化に取り組みました。

「平塚市民病院経営強化プラン」を令和6年度から開始しており、将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025（改訂版）」は、令和5年度で終了となりますが、今後も、地域の中核病院として、高度医療、急性期医療、政策的医療を担う病院としての役割を果たすために、引き続き職員一丸となって病院運営を行います。また、採用活動を工夫し、教育の充実・キャリアアップの支援など職員が成長を実感できる魅力ある環境を整えることで、人材を確保し、医療の質を向上することで、地域の医療機関や住民、患者から信頼を得て「選ばれる病院」となることを目指します。

項目		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	項目		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
新入院患者数	**上半期(人)**	**4,923**	**5,035**	**5,303**	**4,254**	**4,777**	**4,870**	**5,066**	**DPC入院期間Ⅱ以内での退院率**	**上半期(%)**	**-**	**-**	**66.5**	**63.5**	**69.7**	**70.3**	**74.9**
	年間(人)	**9,772**	**10,247**	**10,187**	**8,684**	**9,212**	**9,683**	**10,109**		**年間(%)**	**-**	**-**	**66.1**	**64.3**	**70.6**	**71.0**	**75.5**
平均在院日数	上半期(日)	10.0	10.3	10.1	10.5	9.9	9.6	9.1	入院診療単価	上半期(円)	62,136	65,208	66,539	60,282	72,016	75,629	81,693
※R7目標値：9.5	年間(日)	10.1	10.2	10.4	10.5	10.0	9.7	9.2	※R5目標値：69,102	年間(円)	63,469	66,953	67,307	69,969	76,904	82,359	84,197
手術件数	上半期(件)	1,850	1,938	2,033	1,635	1,999	2,104	2,031	1日当たり平均入院患者数	上半期(人)	325.9	345.5	352.5	305.2	307.1	303.7	294.4
※R7目標値：4,400	年間(件)	3,630	3,937	4,007	3,356	3,882	4,234	4,140	※R5目標値：373.6	年間(人)	327.7	350.1	348.9	311.1	303.3	306.2	299.7
医業収支比率	上半期(%)	93.8	96.7	95.9	78.1	88.0	86.5	87.9	経常収支比率	上半期(%)	112.4	106.1	104.9	88.4	96.5	87.8	95.8
※R5目標値：91.8	年間(%)	83.1	90.9	90.2	82.5	86.4	88.5	86.5	※R5目標値：100.0以上	年間(%)	93.5	100.9	99.6	115.4	118.0	105.7	96.8

○外部点検（平塚市病院運営審議会）

コロナ禍を経て、全国的に患者数が戻らないと言われている中で新入院患者が増え、コロナ前の水準まで戻っているのは、専門性を活かし、質の高い医療を実践している結果であると評価できる。これは、平均在院日数が10日未満となり、機能評価係数Ⅱで高い評価を得ていることからも分かる。また、スポットチェックモニターなどDXを活用した効率化、「広報ひらつか」への掲載や市民健康講座などの広報活動にも積極的に取り組んでいる成果である。

一方で人件費や材料費などの増加に対して、持続的に質の高い医療を提供するためには、収支の改善が必要となることから、更なる効率化に取り組むとともに、患者数増加のために、動画コンテンツの活用などを含めた新たな広報活動の強化が必要であると考えている。

更に、公立病院として地域の医療機関とより連携するとともに、無痛分娩、健診、緩和ケア病棟の設置などについても地域ニーズを踏まえ検討してほしい。

○市長からの意見・指示

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、社会活動の制限が緩和される中で、質の高い医療を提供するとともに、市民や患者に対する活動を強化しており評価している。

「入院診療単価」が増加しているほか、「新入院患者数」や「手術件数」などは新型コロナウイルス感染症流行前と同水準又はそれ以上の水準となっており、ＫＰＩは改善してきている。また、令和6年度の機能評価係数Ⅱの評価では県内標準病院群で2位となっており、医療の質の面で他院と比較しても高い評価を得ていることが分かる。

しかし、外部委員の意見にもあるように、コロナ関連の補助金が廃止・縮小される一方で、人件費や材料費などが増えており、持続的に質の高い医療を提供するために健全経営を進める必要があるため、業務の効率化や患者サービスに注力し、地域との積極的なコミュニケーションを図ることを期待している。

今後も地域からの信頼を得て「選ばれる病院」になれるよう、地域住民に高度・急性期医療と政策的医療を提供し続けてほしい。

【令和7年（2025年）度の診療機能】

内容	具体的施策	令和5年度	
		評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしていきます。	重症患者への対応を着実に実施し、手術件数は新型コロナウイルス感染症流行前の水準以上となっています。地域の中核病院としての役割を果たすことができましたが、更なる増加に向けた取組を行っていく必要があります。	入院が必要な患者の積極的な受入れとDPCの入院期間を意識した在院日数を重視し取り組んだ結果、平均在院日数が短縮し、新入院患者数、入院診療単価が増加するなど、徐々に回復傾向にあります。しかし、地域完結型医療の中で高度医療、急性期医療を担う病院として、更なる新入院患者の受入れ、手術件数の増加及び病病、病診連携の取組が必要です。
救急医療体制を強化します	救命救急センターとして、「断らない救急」を実践するとともに、心臓大血管センター、脳卒中センターを充実し、救急搬送患者をより積極的に受け入れるよう体制を強化します。	前年度に引き続き高い救急応需率を維持しました。神経系疾患や循環器疾患にかかわる常勤医師は充実しつつありますが、救急医の充実と安定的な確保が課題です。	救命救急センターとして「断らない救急」を実践し、高い応需率となりました。三次救急を担う病院として、神経系疾患、循環器系疾患は更に重点的に取り組まなければなりません。
がん医療の充実に努めます	（1）胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの５大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 （2）手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	手術、薬物療法、放射線療法などを組み合わせ、引き続きがん診療の実績を積み重ねました。常勤医師が不在の緩和ケア内科で常勤医師の確保を目指すほか、その他の診療科においても医師の充実を目指します。	がん治療の戦略として手術・薬物療法・放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行うと共に、緩和ケアにも取り組みました。また、手術支援ロボット「hinotori」を導入しましたが、適用術式の更なる拡大を図るなど高度医療を充実します。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	（1）公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 （2）妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けています。出生数が減少し、少子化が進展していますが、産科医、小児科医の確保が大きな課題です。	新型コロナウイルス感染症に対応しつつ、24時間365日高度医療・救急医療に対応しました。出生数が減少し、少子化が進む中で、小児・周産期医療を維持するためには、広域から患者を受け入れる必要があります。令和4年10月からは、割高だった市外居住者の分娩介助料を市内居住者と同額にしており、利用しやすい環境を整えました。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	前年度に急性期病院として対応するべき循環器疾患と脳卒中に関する開業医とのホットラインを開設しましたが、地域の医療機関との連携を更に強化するため、当日紹介ホットラインを再開しました。	地域連携を推進し、紹介、逆紹介を積極的に行うことにより、急性期患者中心の診療を行っています。地域包括ケアシステムの中で高度医療・急性期医療を行う病院としての立場を明確にしています。
災害拠点病院としての機能を充実します	（1）自然災害に強い病院づくりを目指します。 （2）災害時に多発する重篤患者の受入れや、災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の派遣を行います。	当院のもつ設備の有用性を積極的に職員へ周知してきました。地震以外の水害などの対応も検討していく必要があります。	大災害に対応できる設備を持っており、災害時に対応できるよう訓練を行っています。

【短中期事業計画】

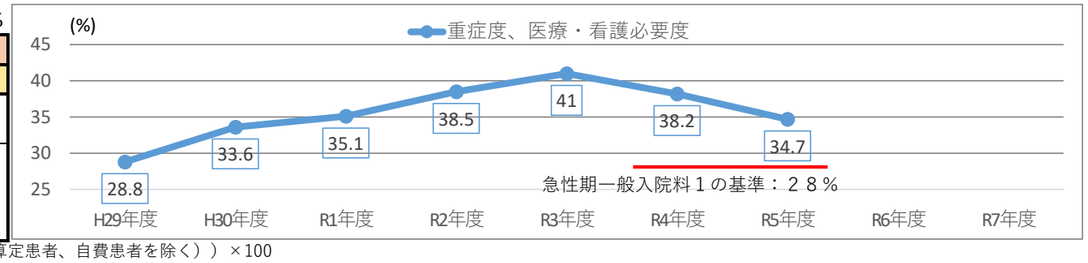
内容/年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
外来患者数（1日平均）	846.2人	829.0人	718.7人	738.9人	757.6人	768.3人		741.3人
外来診療単価	14,341円	15,463円	17,795円	18,220円	17,374円	18,479円		18,000円
外来受診体制	呼吸器内科、精神科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が完全紹介制	呼吸器内科、精神科、整形外科、眼科が、完全紹介制	呼吸器内科、整形外科、眼科が完全紹介制 ※精神科は当院他科受診者のみ	呼吸器内科、整形外科、眼科が完全紹介制 ※精神科は当院他科受診者のみ	「完全紹介制」の拡大を検討 →	
入院患者数（1日平均）	350.1人	348.9人	311.1人	303.3人	306.2人	299.7人		373.4人
入院診療単価	66,953円	67,307円	69,969円	76,904円	82,359円	84,197円		70,000円
病棟運用	386床 （H30.7～）	402床 （R1.7～）	354～381床	354～389床	381～399床	368床～372床		
入退院支援の強化	-	PFM試行	消化器内科ESDを対象に実施	循環器内科CP、消化器外科、呼吸器外科、血管外科、乳腺外科を対象に追加	消化器内科ESD以外、呼吸器内科を対象に追加	整形外科を対象に追加	R2以降PFM順次導入、実施	
救急搬送患者入院患者数	2,725件	2,747件	2,551件	2,995件	3,259件	3,241件		3,000件
手術件数	3,937件	4,007件	3,356件	3,882件	4,234件	4,140件		4,400件
手術室稼働率	-	54.2%	49.1%	54.0%	59.6%	60.6%	手術室稼働率の上昇 →	
紹介率	71.4%	78.6%	80.1%	79.4%	82.2%	86.5%		80.0%
逆紹介率	98.4%	108.0%	117.2%	111.4%	95.7%	89.9%		100.0%
医療機器の新規導入	-	外科手術用Cアーム型X線撮影装置	-	-	手術用ロボット手術ユニット「hinotori」、MRI（3T）	-		
職員の質の向上、確保	採用活動の工夫、研修の実施、資格取得・自己研鑽の支援等						採用活動の工夫、多様な働き方への対応、教育体制の充実、資格取得・自己研鑽の支援等	

Ⅰ　医療の質と効率の視点

令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
令和5年度は、市内の救急搬送が増加する中で高い「救急搬送応需率」を維持しましたが、市外からの救急搬送が減少したことで「救急搬送患者受入数」が減少した結果、「救急車搬送患者入院患者数」が前年度と比べ減少しました。また、「手術件数」については、医師数が減少した診療科などがあり、前年度と比べ減少したものの、高難度の手術を実施しました。 今後も、高度急性期医療、急性期医療を提供するため、医師の確保などを行い、入院が必要な患者を積極的に受け入れるとともに、市民や医療機関に有用な情報発信を行います。

（ア）重症度、医療・看護必要度（一般病棟）　　単位：%

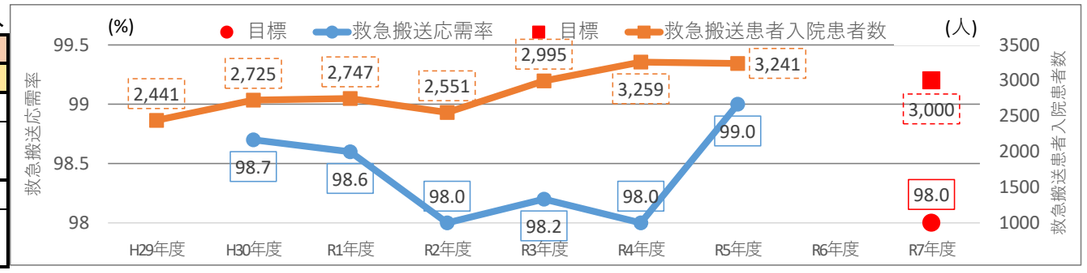
【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
重症度、医療・看護必要度（一般病棟）	目標値	(26.5)	(27.0)	(27.5)	(28.0)	急性期一般入院料1の施設基準を満たします。				
	上半期実績	(29.2)	(34.0)	(33.4)	(37.7)	39.5	38.9	35.3		
H28実績：29.4	年間実績	(28.8)	(33.6)	(35.1)	(38.5)	41.0	38.2	34.7		



※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）＝（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））／（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））×100
※令和2年10月から重症度、医療・看護必要度Ⅱで計算しています。
※令和2年度年間実績は、令和2年10月から令和3年3月の実績で計算しています。

（イ）救急患者受入数　（産科及び小児科（周産期）を含む。）　　単位：%・人

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
救急搬送応需率	目標値	-	-	-	-	現在の高い水準を維持します。				98.0
	上半期実績	-	-	-	-	98.4	98.3	99.1		
	年間実績	-	98.7	98.6	98.0	98.2	98.0	99.0		
救急車搬送患者入院患者数	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850	増加を目指します。				3,000
	上半期実績	1,174	1,299	1,446	1,226	1,494	1,629	1,643※		
H28実績：2,420	年間実績	2,441	2,725	2,747	2,551	2,995	3,259	3,241		



※精査の結果、令和5年度中間評価時点から変更になっています。

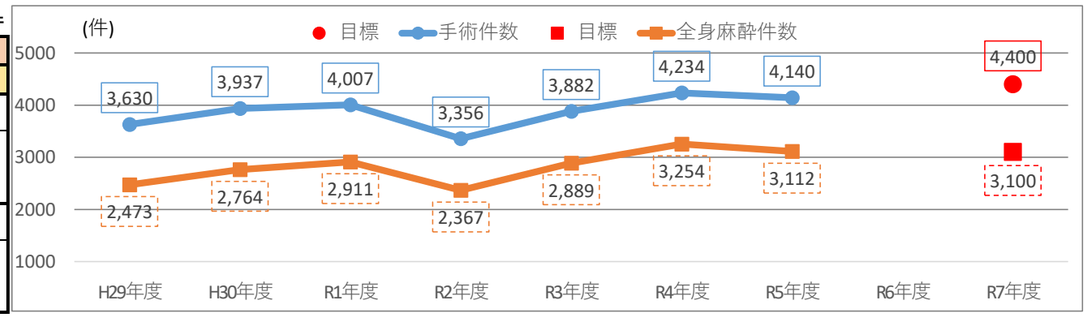
（ウ）総合入院体制加算　退院時治癒・紹介率（総合入院体制加算の施設基準による）　　単位：%

【関係部門】	診療部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合入院体制加算退院時治癒・紹介率	目標値	40	40	40	40	総合入院体制加算2の施設基準を満たします。				
	上半期実績	43.5	47.8	48.5	51.0	52.0	53.1	46.0		
H28実績：28.9	年間実績	46.7	48.3	51.4	50.1	50.4	51.1	45.2		

※総合入院体制加算は、令和4年度以降算定していません。

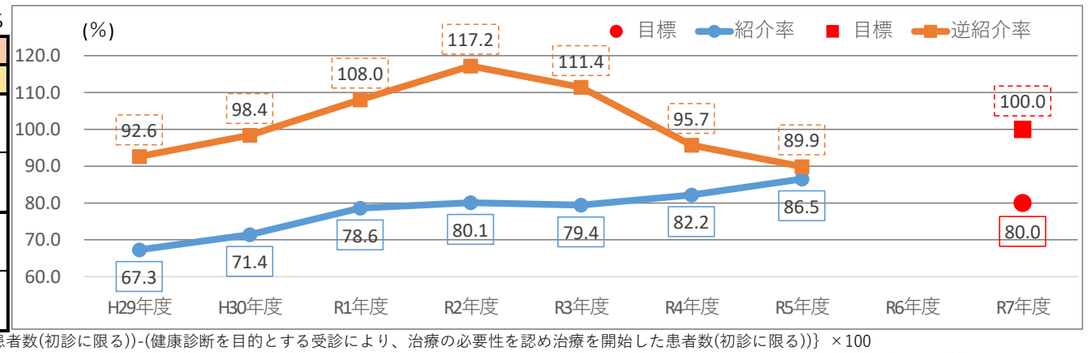
（エ）手術件数　　単位：件

【関係部門】	診療部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手術件数（中央手術室）	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	増加を目指します。				4,400
	上半期実績	1,850	1,938	2,033	1,635	1,999	2,104	2,031		
H28実績：3,696	年間実績	3,630	3,937	4,007	3,356	3,882	4,234	4,140		
全身麻酔件数	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000	増加を目指します。				3,100
	上半期実績	1,213	1,342	1,447	1,121	1,472	1,613	1,534		
H28実績：2,484	年間実績	2,473	2,764	2,911	2,367	2,889	3,254	3,112		



（オ）紹介率・逆紹介率　　単位：%

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
紹介率	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院の承認要件を満たすとともに地域医療連携を進め、高い水準を維持します。				80.0
	上半期実績	68.5	-	74.9	77.8	77.6	80.5	86.3		
H28実績：62.3	年間実績	67.3	71.4	78.6	80.1	79.4	82.2	86.5		
逆紹介率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0	地域医療支援病院の承認要件を満たすとともに地域医療連携を進め、高い水準を維持します。				100.0
	上半期実績	89.4	93.0	100.3	111.1	109.3	98.6	86.4		
H28実績：86.6	年間実績	92.6	98.4	108.0	117.2	111.4	95.7	89.9		



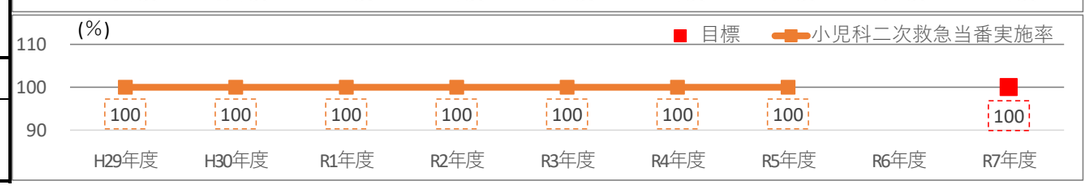
※紹介率=紹介患者の数(初診に限る)/｛(初診患者の数(初診料算定患者))-(救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))｝×100
※逆紹介率=逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数)/｛(初診患者の数(初診料算定患者))-(救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))-(休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))-(健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る))｝×100

Ⅱ　患者満足の視点

令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
令和5年度は、三次救急医療機関として救急対応を行うとともに、平塚・中郡地域の産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担い、平塚・中郡地域で唯一分娩ができる病院として医療体制を維持しました。「分娩件数」は、平塚市などの出生数の増加などもあり、前年度よりも増加しました。 患者や医療機関に対する情報発信については、市民健康講座を再開しました。また、ホームページや病院広報誌「SMILE!」、報道機関の取材への対応により当院の情報について積極的に発信しました。

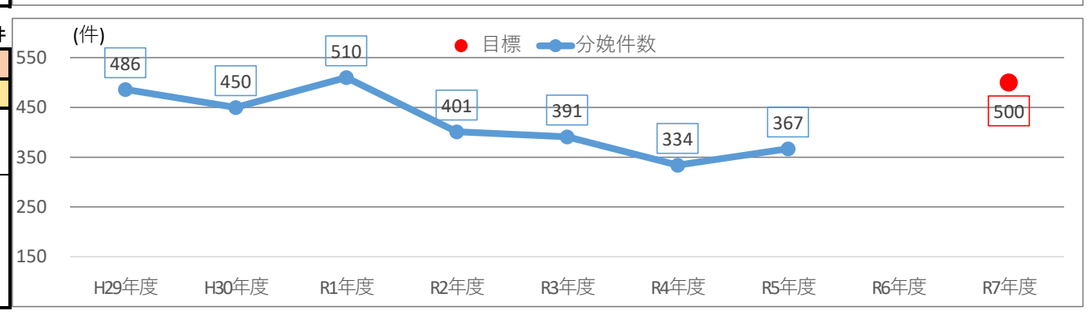
（ア）産科・小児科（周産期）の二次救急当番実施率　　単位：%

【関係部門】	診療部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
産科	目標値	-	-	-	-	小児、周産期の救急医療体制を維持します。				100
	上半期実績	-	-	-	-	100	100	100		
	年間実績	100	100	100	100	100	100	100		
小児科	目標値	-	-	-	-	小児、周産期の救急医療体制を維持します。				100
	上半期実績	-	-	-	-	100	100	100		
	年間実績	100	100	100	100	100	100	100		



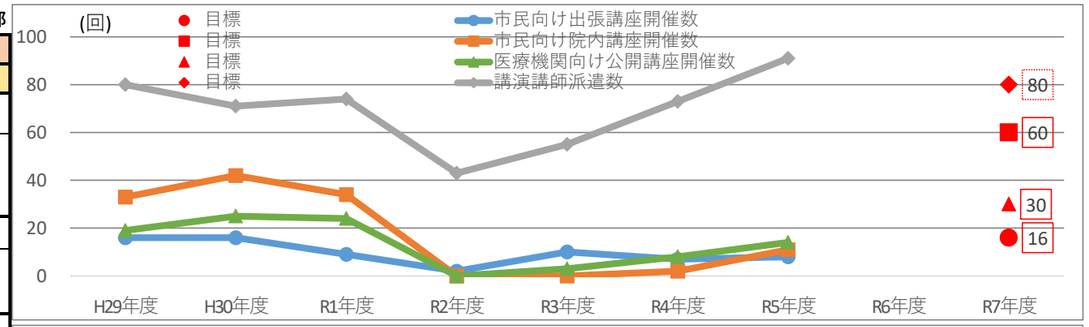
（イ）分娩件数　　単位：件

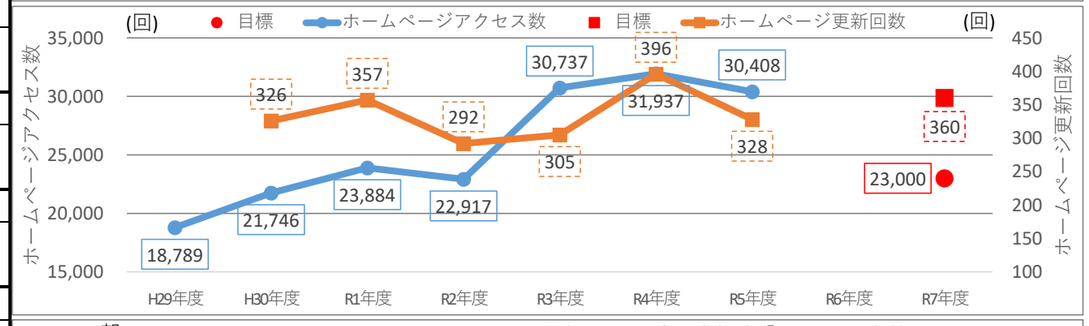
【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
分娩件数（子どもの数）	目標値	490	520	550	580	分娩に対応できる体制を維持します。				500
	上半期実績	256	239	264	226	189	181	158		
H28実績：453	年間実績	486	450	510	401	391	334	367		

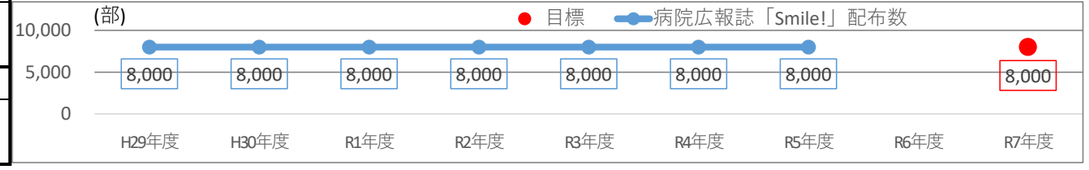


（ウ）情報発信件数　　単位：回・部

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民向け出張講座開催数(出前講座など)	目標値	11	12	13	15	引き続き情報発信を積極的に行います。				16
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
H28実績：13	年間実績	16	16	9	2	10	7	8		
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60	引き続き情報発信を積極的に行います。				60
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	33	42	34	0	0	2	11		
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20	引き続き情報発信を積極的に行います。				30
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	19	25	24	0	3	8	14		
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45	引き続き情報発信を積極的に行います。				80
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	80	71	74	43	55	73	91		
ホームページアクセス数（月平均）	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000	引き続き情報発信を積極的に行います。				23,000
	上半期実績	19,646	21,883	24,182	23,861	31,795	34,161	32,068		
H28実績：19,200	年間実績	18,789	21,746	23,884	22,917	30,737	31,937	30,408		
ホームページ更新回数	目標値	-	-	-	-	引き続き情報発信を積極的に行います。				360
	上半期実績	-	-	-	-	-	215	185		
	年間実績	-	326	357	292	305	396	328		
病院広報誌「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000	引き続き情報発信を積極的に行います。				8,000
	上半期実績	2,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000		
H28実績：8,000	年間実績	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000		



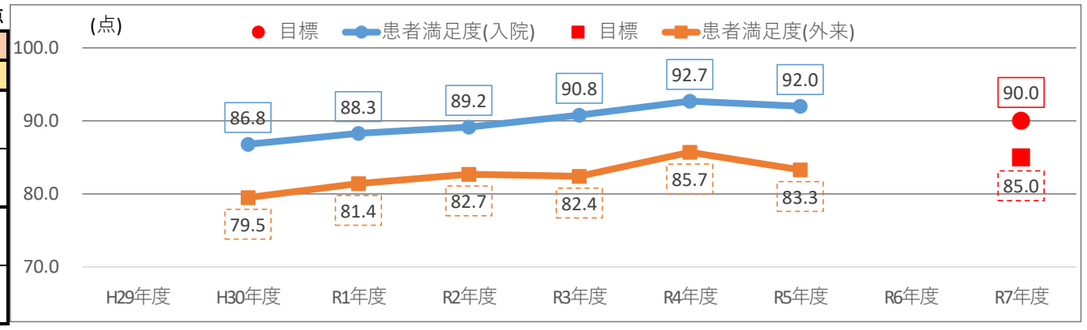




（エ）患者満足度

単位：点

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
入院	目標値	-	-	-	-	患者さんに、満足していただける医療を提供します。				90.0
	年間実績		86.8	88.3	89.2	90.8	92.7	92.0		
外来	目標値	-	-	-	-	患者さんに、満足していただける医療を提供します。				85.0
	年間実績		79.5	81.4	82.7	82.4	85.7	83.3		



※毎年度実施している患者満足度調査における総合評価の平均点数（100点満点）

III　経営・財務の視点

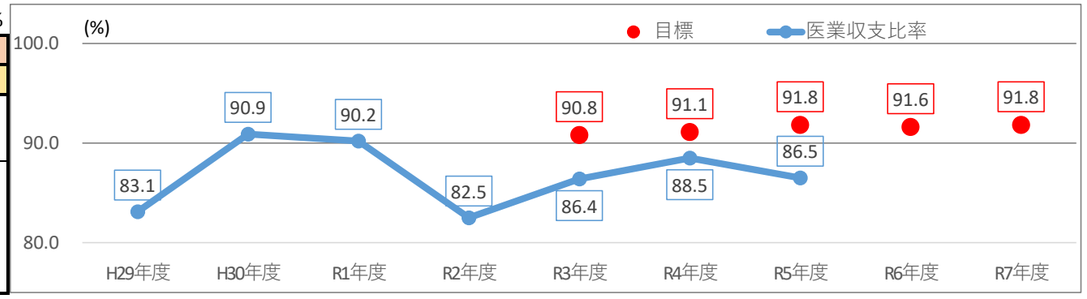
（ア）経営改善に係るもの

令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
令和5年度は、前年度と比べ医業収益が約2億8,200万円増加したものの、給与費や材料費などを中心に医業費用が約6億5,300万円増加したため、「医業収支比率」が悪化しました。また、「経常収支比率」については、新型コロナウイルス感染症にかかる補助金減少の影響もあり、8.9ポイント悪化しました。 良質な医療の提供には、経営の安定化が不可欠であり、医師をはじめとする職員の確保や入院が必要な患者の積極的な受入れにより、収益増加につなげるとともに、効率的な運営により経費削減に取り組みます。

a　医業収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	90.8	91.1	91.8	91.6	91.8
	上半期実績	93.8	96.7	95.9	78.1	88.0	86.5	87.9		
H28実績：86.3	年間実績	83.1	90.9	90.2	82.5	86.4	88.5	86.5		

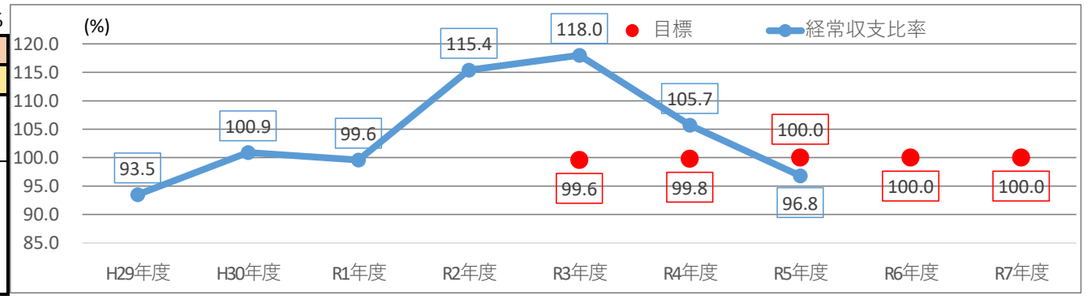


※医業収支比率=（医業収益）／（医業費用）×100

b　経常収支比率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	99.6	99.8	100.0以上	100.0以上	100.0以上
	上半期実績	112.4	106.1	104.9	88.4	96.5	87.8	95.8		
H28実績：93.9	年間実績	93.5	100.9	99.6	115.4	118.0	105.7	96.8		



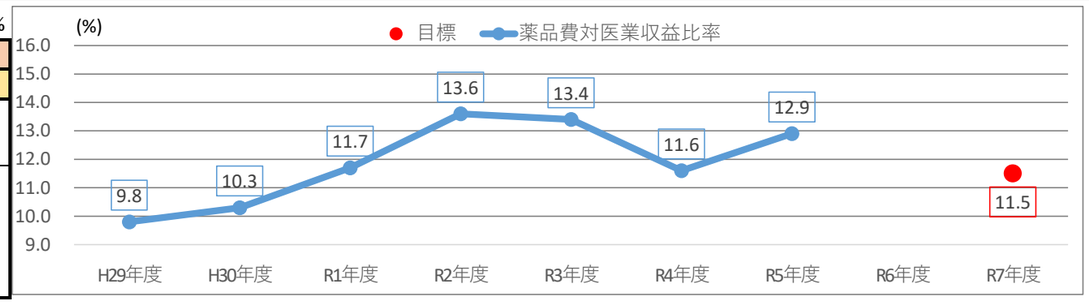
※経常収支比率=｛（医業収益）＋（医業外収益）｝／｛（医業費用）＋（医業外費用）｝×100

（イ）経費削減に係るもの

令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
高度急性期医療を実践するためには、高額医薬品や新たな診療材料の使用が不可避であるため、費用は一定程度増加すると考えていますが、それ以上に収益を増加させることで適正な対医業収益比率を維持する必要があります。 令和5年度は、医業収益が増加したものの、高額な薬剤を使用する診療の増などにより、前年度と比べ薬品費が約2億100万円増加したほか、給与改定などにより給与費が約3億4,500万円増加、診療材料費は約4,300万円増加し、医療収益の増加率を上回ったことから、「薬品費対医業収益比率」、「診療材料費対医業収益比率」、「職員給与費対医業収益比率」のいずれも上昇しました。

a　薬品費対医業収益比率　　単位：%

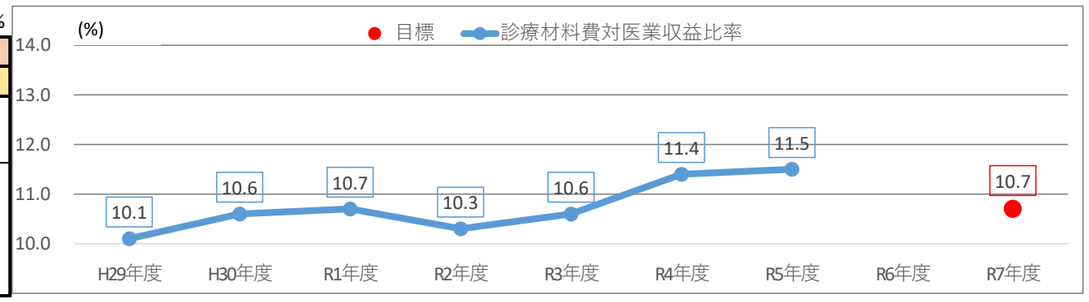
【関係部門】	診療部門、薬剤部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
薬品費 対医業収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	現在の低い比率を維持します。				11.5
	上半期実績	11.2	11.8	14.6	17.4	16.3	13.7	15.2		
H28実績：10.3	年間実績	9.8	10.3	11.7	13.6	13.4	11.6	12.9		



※薬品費対医業収益比率=（薬品費）／（医業収益）×100

b　診療材料費対医業収益比率　　単位：%

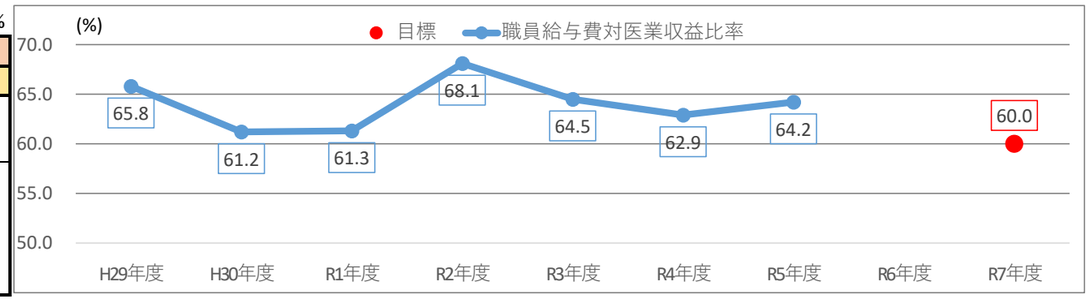
【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
診療材料費 対医業収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	現在の低い比率を維持します。				10.7
	上半期実績	11.2	11.5	11.9	12.1	12.1	13.1	12.5		
H28実績：10.6	年間実績	10.1	10.6	10.7	10.3	10.6	11.4	11.5		



※診療材料費対医業収益比率=（診療材料費）／（医業収益）×100

c　職員給与費対医業収益比率　　単位：%

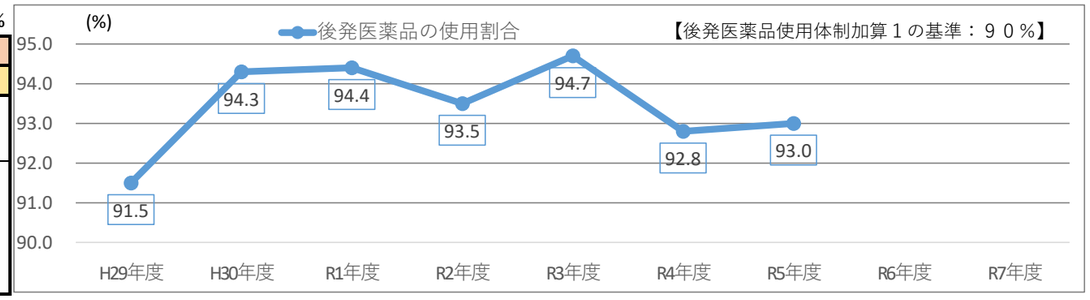
【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
職員給与費 対医業収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	増加の抑制に努めます。				60.0
	上半期実績	54.8	51.8	50.3	64.0	56.5	58.7	56.8		
H28実績：65.8	年間実績	65.8	61.2	61.3	68.1	64.5	62.9	64.2		



※職員給与費対医業収益比率=（給与費）／（医業収益）×100

d　後発医薬品の使用割合　（使用量ベースによる割合）　　単位：%

【関係部門】	診療部門、薬剤部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
後発医薬品の 使用割合	目標値	84	85	86	87	後発医薬品使用体制加算1の 施設基準を満たします。				
	上半期実績	-	94.1	93.7	93.2	94.8	93.4	92.8※		
H28実績：85.5	年間実績	91.5	94.3	94.4	93.5	94.7	92.8	93.0		



※後発医薬品の使用割合=（後発医薬品）／｛（後発医薬品のある先発医薬品）＋（後発医薬品）｝×100

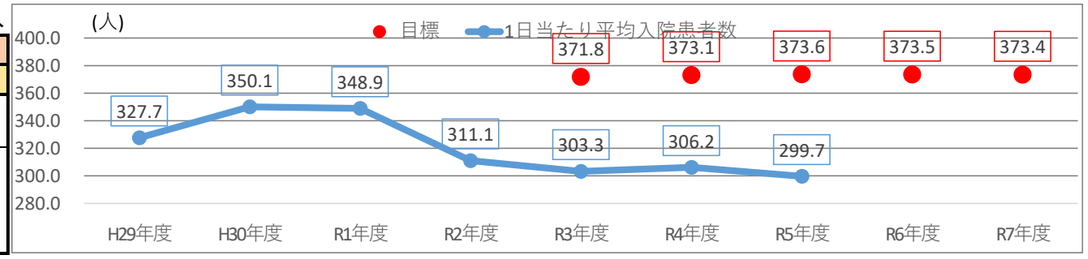
※精査の結果、令和5年度中間評価時点から変更になっています。

（ウ）収入確保に係るもの

令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
高度急性期医療を提供する病院として、収益確保のためには、重症患者を中心とした入院が必要な患者の積極的な受入れとDPCにおける適正な入院期間を意識した取組が重要です。令和5年度は、適正な入院期間を意識したことで、前年度と比べ平均在院日数は短縮し、入院診療単価は増加しました。また、消化器内科などで新入院患者数の増加が見られ、全体では426人増加しました。外来では、医師を増員した診療科を中心に延患者数が増加するとともに、抗がん剤等の高額薬剤を使用する患者が増えたことで「外来診療単価」は増加しました。

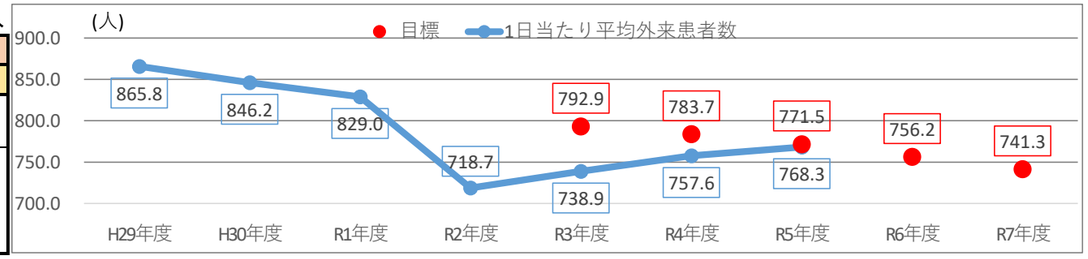
a　１日当たり平均入院患者数　　単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	351.0	351.0	350.0	370.0	371.8	373.1	373.6	373.5	373.4
	上半期実績	325.9	345.5	352.5	305.2	307.1	303.7	294.4		
H28実績：353.4	年間実績	327.7	350.1	348.9	311.1	303.3	306.2	299.7		



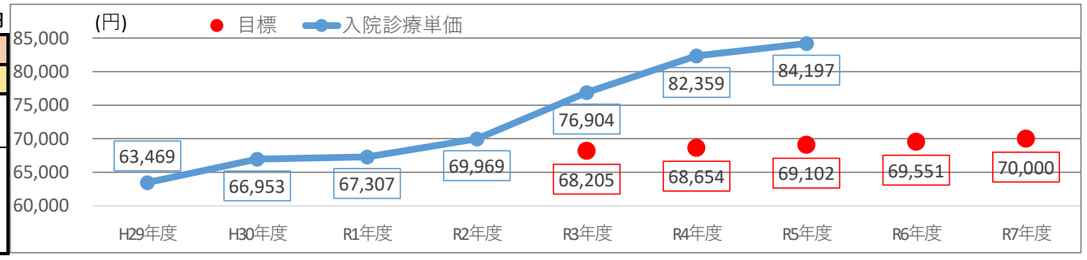
b　１日当たり平均外来患者数　　単位：人

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	915.0	887.0	852.0	824.0	792.9	783.7	771.5	756.2	741.3
	上半期実績	877.4	836.3	839.3	693.3	732.3	751.4	753.8		
H28実績：924.3	年間実績	865.8	846.2	829.0	718.7	738.9	757.6	768.3		



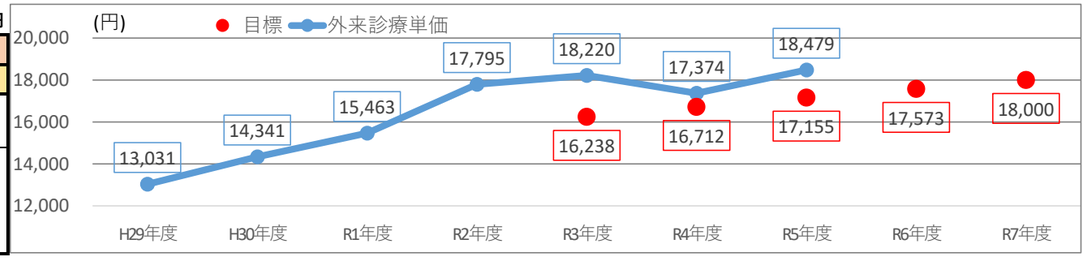
c　入院診療単価　　単位：円

【関係部門】	診療部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	68,205	68,654	69,102	69,551	70,000
	上半期実績	62,136	65,208	66,539	60,282	72,016	75,629	81,693		
H28実績：56,879	年間実績	63,469	66,953	67,307	69,969	76,904	82,359	84,197		



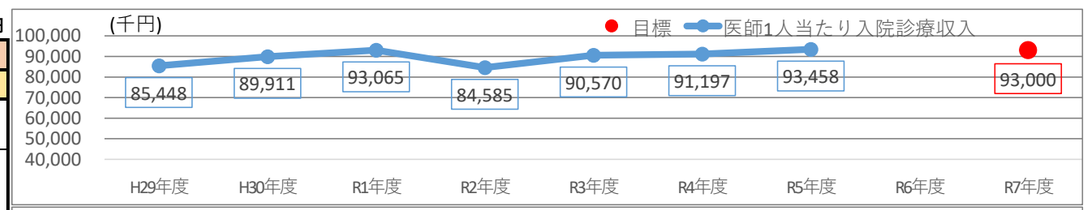
d　外来診療単価　　単位：円

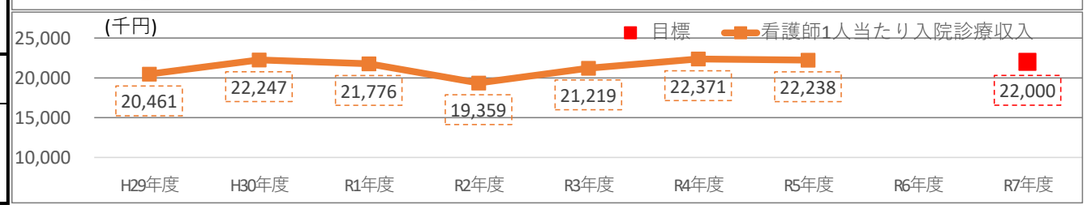
【関係部門】	診療部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	16,238	16,712	17,155	17,573	18,000
	上半期実績	12,162	13,811	15,071	17,359	18,429	16,639	17,950		
H28実績：11,969	年間実績	13,031	14,341	15,463	17,795	18,220	17,374	18,479		



e　医師及び看護師１人当たり入院診療収入　　単位：千円

【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	増加を目指します。				93,000
	上半期実績	40,959	43,094	45,542	35,485	42,678	41,761	44,689		
H28実績：80,169	年間実績	85,448	89,911	93,065	84,585	90,570	91,197	93,458		
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	増加を目指します。				22,000
	上半期実績	9,920	10,645	10,727	8,143	9,970	10,078	10,465		
H28実績：21,094	年間実績	20,461	22,247	21,776	19,359	21,219	22,371	22,238		

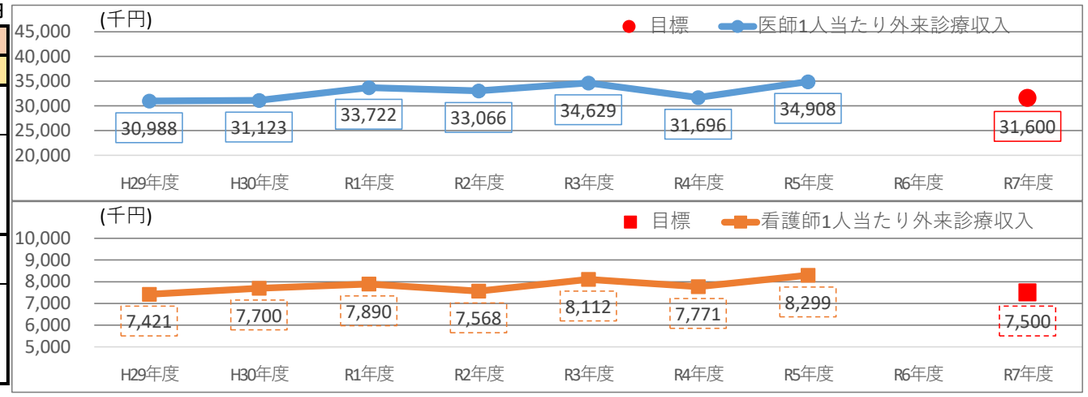




f　医師及び看護師１人当たり外来診療収入

単位：千円

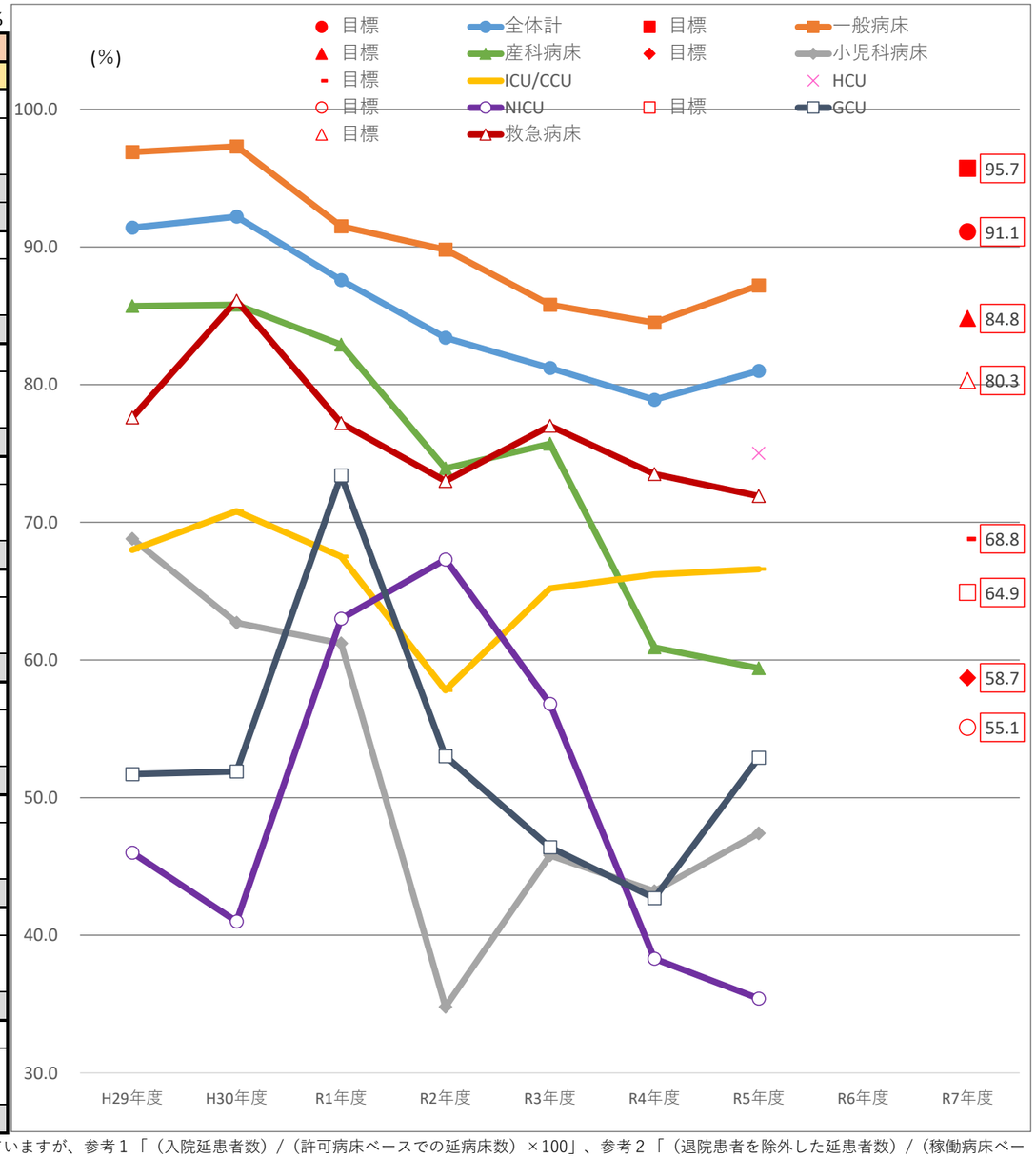
【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	現在の状況を維持します。				31,600
	上半期実績	14,622	14,973	16,635	15,473	17,364	15,281	17,036		
H28実績：29,388	年間実績	30,988	31,123	33,722	33,066	34,629	31,696	34,908		
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830	現在の状況を維持します。				7,500
	上半期実績	3,543	3,699	3,918	3,551	4,053	3,689	3,990		
H28実績：7,732	年間実績	7,421	7,700	7,890	7,568	8,112	7,771	8,299		



g　病床稼働率

単位：％

【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	高い水準を維持します。				91.1
	上半期実績	91.5	92.5	89.5	-	83.2	76.9	79.2		
	年間実績	91.4	92.2	87.6	83.4	81.2	78.9	81.0		
	参考１	79.9	85.4	85.1	75.9	74.0	74.7	73.1		
	参考２	83.9	84.8	80.6	75.4	74.4	72.1	73.5		
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0	高い水準を維持します。				95.7
	上半期実績	96.7	97.9	93.3	-	88.0	81.2	85.4		
	年間実績	96.9	97.3	91.5	89.8	85.8	84.5	87.2		
	参考１	81.8	88.4	88.2	80.4	77.6	79.3	76.6		
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	高い水準を維持します。				84.8
	上半期実績	86.3	85.8	81.1	-	76.7	64.3	54.8		
	年間実績	85.7	85.8	82.9	73.9	75.7	60.9	59.4		
	参考１	85.7	85.8	82.9	73.9	75.7	60.9	59.4		
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				58.7
	上半期実績	76.3	62.8	65.8	-	51.1	41.9	50.2		
	年間実績	68.8	62.7	61.2	34.8	45.8	43.2	47.4		
	参考１	68.8	62.7	61.2	34.8	45.8	43.2	47.4		
ICU／CCU（集中治療室）	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				68.8
	上半期実績	65.7	67.9	68.3	-	61.4	67.3	61.5		
	年間実績	68.0	70.8	67.5	57.8	65.2	66.2	66.6		
	参考１	68.0	70.8	67.5	57.8	65.2	66.2	66.6		
HCU※	目標値	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	-	-	-	-	-	-	75.0		
	参考１	-	-	-	-	-	-	75.0		
NICU（新生児特定集中治療室）	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				55.1
	上半期実績	51.2	45.7	71.0	-	59.9	53.0	39.5		
	年間実績	46.0	41.0	63.0	67.3	56.8	38.3	35.4		
	参考１	46.0	41.0	63.0	67.3	56.8	38.3	35.4		
GCU（継続保育治療室）	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				64.9
	上半期実績	54.7	57.0	81.6	-	49.9	50.6	53.3		
	年間実績	51.7	51.9	73.4	53.0	46.4	42.7	52.9		
	参考１	51.7	51.9	73.4	53.0	46.4	42.7	52.9		
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	高い水準を維持します。				80.3
	上半期実績	73.7	83.1	78.5	-	77.0	74.4	67.0		
	年間実績	77.6	86.1	77.2	73.0	77.0	73.5	71.9		
	参考１	77.6	86.1	77.2	63.7	57.8	66.0	71.5		

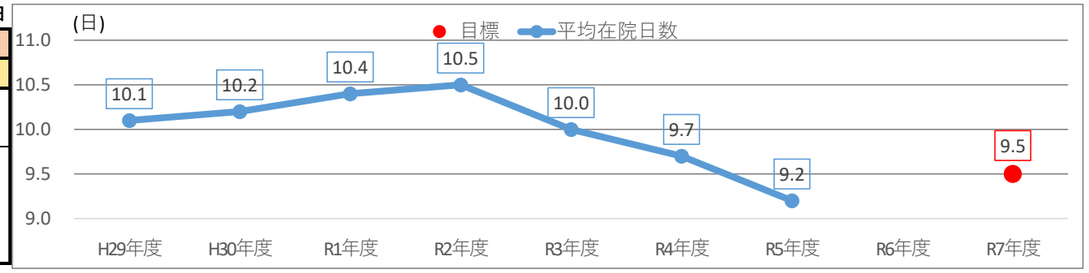


※病床稼働率は、（入院延患者数）／（稼働病床（新型コロナウイルス感染症対応のための休止病床等を除く）ベースでの延病床数）×100で算出していますが、参考１「（入院延患者数）／（許可病床ベースでの延病床数）×100」、参考２「（退院患者を除外した延患者数）／（稼働病床ベースでの延病床数）×100」を記載しています。

※HCUは令和5年11月から設置

h　平均在院日数　　**単位：日**

【関係部門】	診療部門、看護部門、地域医療支援部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	短縮を目指します。				9.5
	上半期実績	10.0	10.3	10.1	10.5	9.9	9.6	9.1		
H28実績：10.5	年間実績	10.1	10.2	10.4	10.5	10.0	9.7	9.2		



Ⅳ　職員の学習と成長の視点

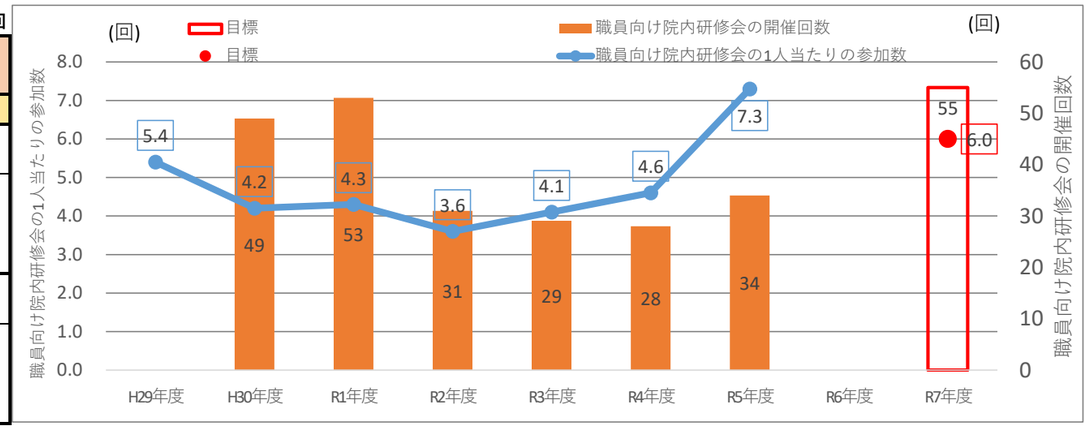
令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

職員の教育・育成は、当院の基本方針にも位置付けられている重要な要素であり、質の高い職員を育成するために、成長の機会を提供し、職員にとって魅力ある環境を整備することが必要であると考えています。

令和5年度は、オンラインの活用など様々な工夫をして研修会等を開催し、職員の教育・育成を行いました。今後も、教育の場の充実やキャリアアップ制度の整備により、学習意欲の高い職員を支援する環境を整え、職員の育成、能力向上を図ります。

（ア）職員向け院内研修会の１人当たりの参加数　　**単位：回**

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	引き続き職員に学習の場を提供し、質の高い人材の確保、育成を目指します。				6
	上半期実績	2.6	2.1	2.1	0.6	-	-	-		
	年間実績	5.4	4.2	4.3	3.6	4.1	4.6	7.3		
職員向け院内研修会の開催回数	目標値	-	-	-	-	引き続き職員に学習の場を提供し、質の高い人材の確保、育成を目指します。				55
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	-	49	53	31	29	28	34		

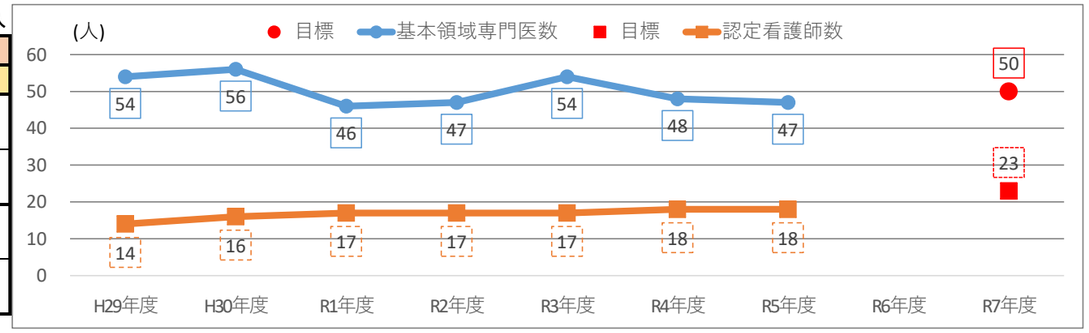


（イ）有資格者数　　**単位：人**

【関係部門】	診療部門、看護部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	資格を有する職員を確保、育成し、増加を目指します。				50
	実績	54※	56※	46※	47※	54※	48※	47※		
認定看護師数	目標値	17	19	21	23	資格を有する職員を確保、育成し、増加を目指します。				23
	実績	14※	16※	17※	17※	17※	18※	18※		

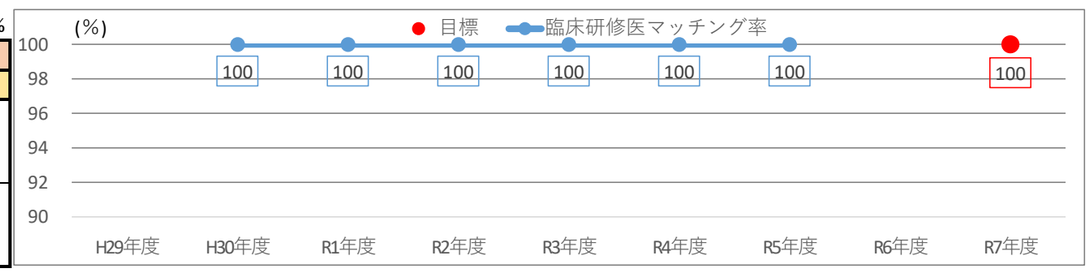
※各年度10月1日時点。常勤職員の人数。

※令和元年度以降の「基本領域専門医数」の実績は、新専門医制度で基本領域と扱われている専門医資格を有する人数です。



（ウ）臨床研修医マッチング率　　**単位：%**

【関係部門】	診療部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
臨床研修医マッチング率	目標値	-	-	-	-	魅力ある研修環境の整備により、高い水準を維持します。				100
	実績	-	100	100	100	100	100	100		

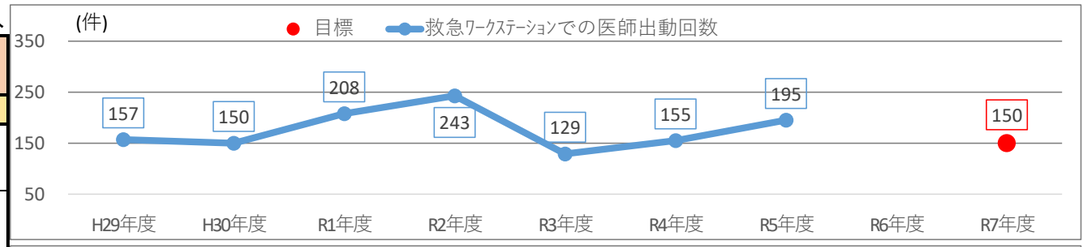


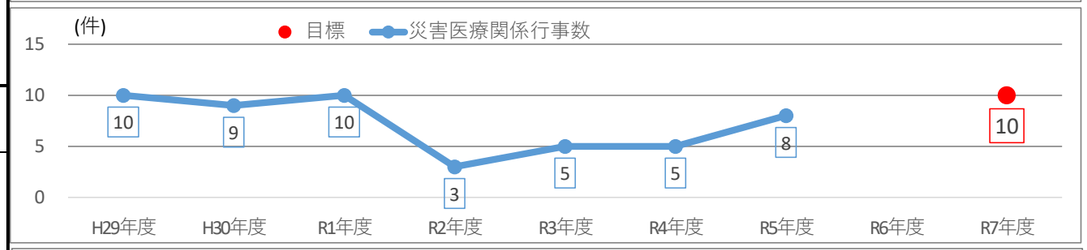
Ⅴ　社会貢献の視点

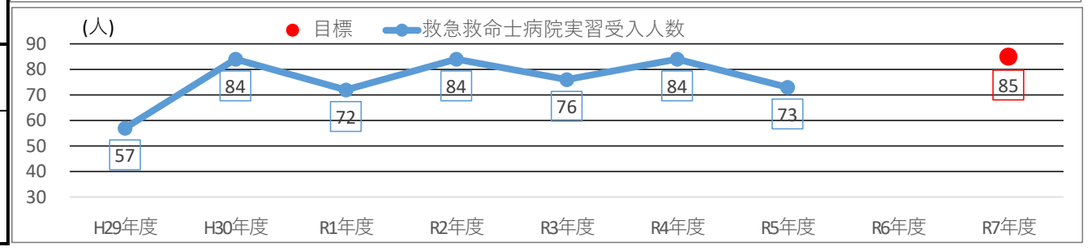
令和5年度（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）
地域医療支援病院として、救急医療、災害医療や人材育成、情報発信などさまざまな分野での社会貢献に積極的に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い活動可能な範囲が広がったことから、積極的に地域で必要とされる取組を行いました。 今後も地域に出て活動することで、広く社会全体に貢献し、当院の存在価値を高めていきます。

（ア）社会貢献活動の実施数　　**単位：件・人**

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
救急ﾜｰｸｽﾃｰｼｮﾝでの医師出動件数	目標値	150	150	150	150	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				150
	上半期実績	63	68	97	75	59	73	96		
	年間実績	157	150	208	243	129	155	195		
災害医療関係行事（活動）数	目標値	10	10	10	10	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				10
	上半期実績	6	6	7	1	2	2	4		
H28実績：11	年間実績	10	9	10	3	5	5	8		
救急救命士病院実習受入人数	目標値	55	55	55	55	引き続き災害拠点病院としての役割を果たすとともに救急隊との連携を充実させる取組みを行います。				85
	上半期実績	27	35	61	60	62	70	48		
H28実績：52	年間実績	57	84	72	84	76	84	73		

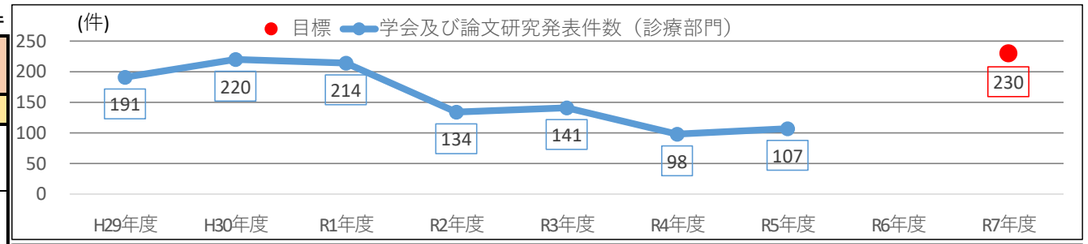


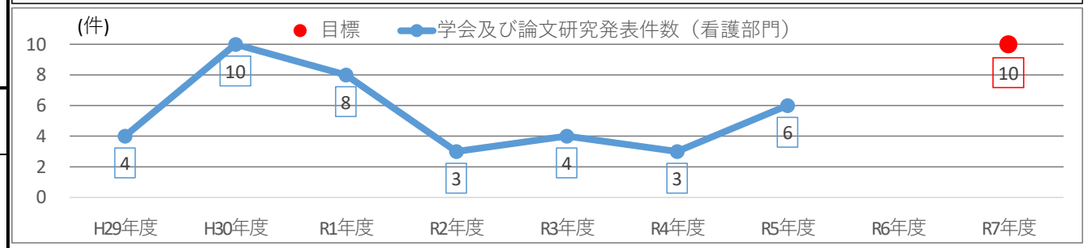


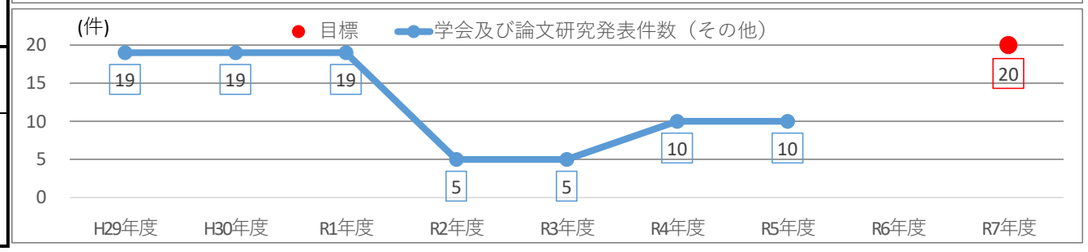


（イ）学会及び論文研究発表件数　　**単位：件**

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
診療部門	目標値	170	175	180	185	引き続き研究成果を社会に還元します。				230
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
H28実績：178	年間実績	191	220	214	134	141	98	107		
看護部門	目標値	5	5	6	6	引き続き研究成果を社会に還元します。				10
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
H28実績：8	年間実績	4	10	8	3	4	3	6		
その他	目標値	30	32	34	36	引き続き研究成果を社会に還元します。				20
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
H28実績：22	年間実績	19	19	19	5	5	10	10		



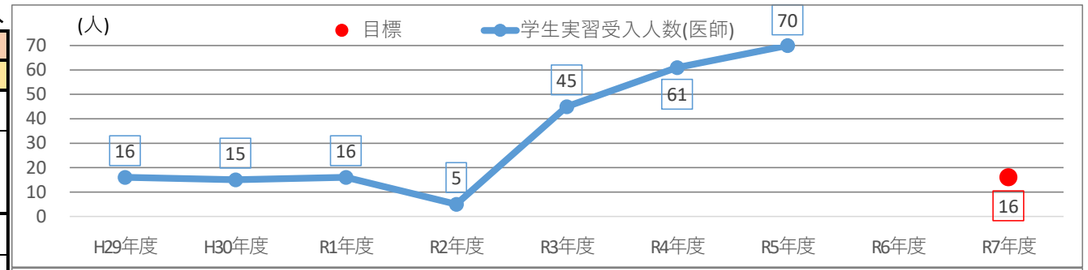


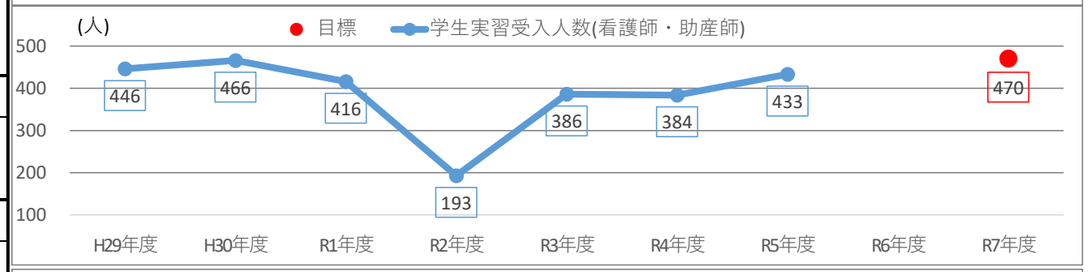


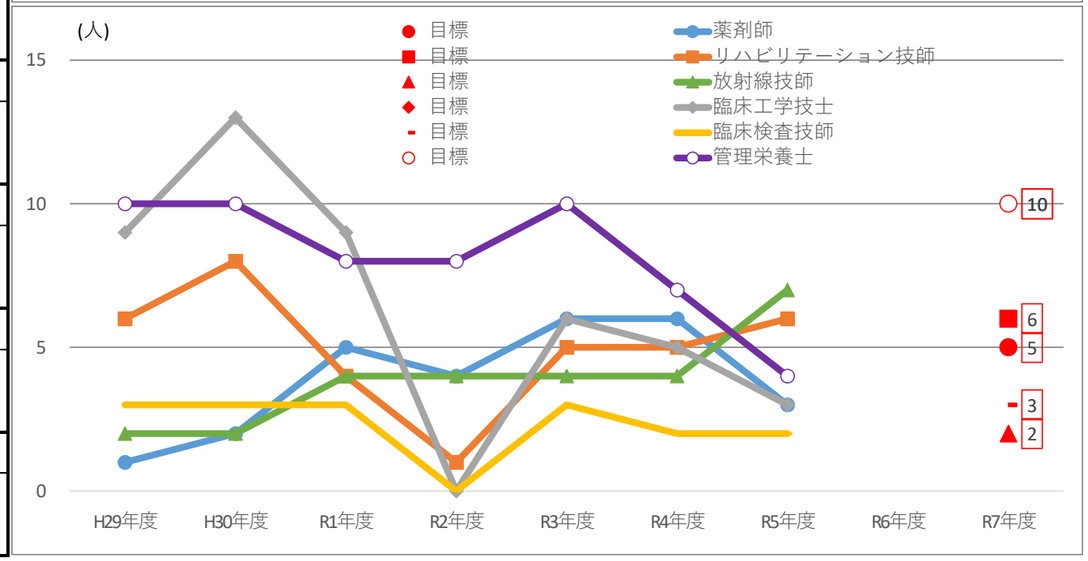
（ウ）学生実習受入人数

単位：人

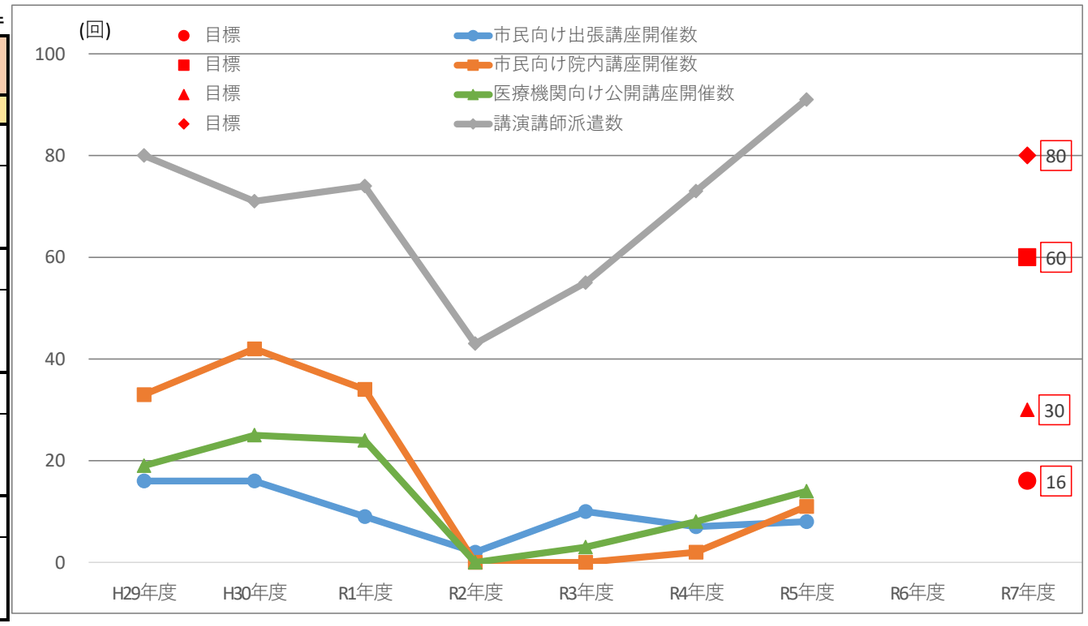
【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
医師	目標値	17	18	19	20	引き続き人材育成に取り組みます。				16
	上半期実績	9	―	11	0	32	42	46		
	年間実績	16	15	16	5	45	61	70		
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520	引き続き人材育成に取り組みます。				470
	上半期実績	249	237	270	55	221	197	232		
H28実績：438	年間実績	446	466	416	193	386	384	433		
薬剤師	目標値	1	4	4	4	引き続き人材育成に取り組みます。				5
	上半期実績	1	2	5	4	6	6	3		
H28実績：2	年間実績	1	2	5	4	6	6	3		
リハビリテーション技師	目標値	7	7	7	7	引き続き人材育成に取り組みます。				6
	上半期実績	4	6	2	0	1	1	2		
H28実績：7	年間実績	6	8	4	1	5	5	6		
放射線技師	目標値	1	1	2	2	引き続き人材育成に取り組みます。				2
	上半期実績	2	2	2	1	4	3	5		
H28実績：0	年間実績	2	2	4	4	4	4	7		
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7	引き続き人材育成に取り組みます。				10
	上半期実績	9	13	9	0	6	5	3		
H28実績：7	年間実績	9	13	9	0	6	5	3		
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2	引き続き人材育成に取り組みます。				3
	上半期実績	3	3	3	0	3	2	2		
H28実績：2	年間実績	3	3	3	0	3	2	2		
管理栄養士	目標値	8	10	10	10	引き続き人材育成に取り組みます。				10
	上半期実績	2	2	2	1	4	4	0		
H28実績：6	年間実績	10	10	8	8	10	7	4		







（エ）講座及び講演数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門									
区分／年度		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	引き続き積極的な情報発信を行います。				16
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
H28実績：13	年間実績	16	16	9	2	10	7	8		
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60	引き続き積極的な情報発信を行います。				60
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	33	42	34	0	0	2	11		
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20	引き続き積極的な情報発信を行います。				30
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	19	25	24	0	3	8	14		
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45	引き続き積極的な情報発信を行います。				80
	上半期実績	-	-	-	-	-	-	-		
	年間実績	80	71	74	43	55	73	91